

## 小中5年間を関係させた家庭科カリキュラム

### 意思決定力の育成を視点として

鈴木真由子（生活環境学科目・家庭科教育）

菅野 明子（新潟大学 附属新潟中学校）

福田 愛日（新潟大学 附属新潟小学校）

平成10年に改訂された学習指導要領に基づき、意思決定力の育成を分析の視点として、小中5年間を関係させた家庭科カリキュラムを検討した。分析の対象は、平成14年度の附属新潟小学校及び附属新潟中学校の年間指導計画である。それぞれの題材について、意思決定力の育成をどの程度意識していたのか分類した。また、中・長期的な視野に基づく評価の可能性についても検討した。意思決定力の育成といった、カリキュラム横断的な視点で5年間の指導計画を分析した結果、題材・単元の関係性がより明確になった。今後は、小中5年間の関係を考慮した上で、育てたい力がどの題材・単元でどのように身に付くのか、それを、どこでどのように評価するのか、といった観点からも柔軟にカリキュラムを構想することが重要である。

〔キーワード〕 意思決定力 カリキュラム 小中関係

#### はじめに

2002年4月から、小中学校における新しい学習指導要領が全面実施となった。これに伴い、教科学習の時間が削減されるとともに、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）が導入された。

義務教育における家庭科は、小学校5年生から教科「家庭」としてスタートし、中学校では教科「技術・家庭」の家庭分野として位置づけられている。この度の学習指導要領の改訂によって、小中学校ともに内容の大綱化が進み、担当教員の自由裁量に委ねられることになった。その結果、教員一人ひとりのカリキュラム編成能力が問われるとともに、題材の系統性を意識した配置や、小中学校の連続性を重要視したカリキュラム研究が、より一層推進される必要がある。

これまでも、家庭科教育学会による小中高のミニマム・エッセンシャルズ<sup>1)</sup>が示されたり、小中高の一

貫性を考慮したカリキュラム<sup>2)</sup>が提案されたりしてきた。しかし、これらはいずれも平成10年の学習指導要領改訂以前に出されたものであり、改訂後の具体的な状況を反映させたものではない。

そこで本論においては、小中学校5年間を関係させた家庭科カリキュラムを、新学習指導要領に基づいて検討することを目的とする。その際、家庭科における意思決定力の育成を共通の視点とし、中・長期的な視野での評価を念頭において検討を試みる。

#### 1. 学習指導要領の改訂にみる大綱化

本論に入る前に、学習指導要領の最近3回の改訂内容を概観しておこう。表1及び2は、昭和52年、平成元年、平成10年に改訂された学習指導要領を比較したものである。

表1. 小学校学習指導要領「家庭」の変遷

		昭和52年改訂	平成元年改訂	平成10年改訂
授業時数	5年生	70時間	70時間	60時間
	6年生	70時間	70時間	55時間
目標の示し方		学年ごと	2年間まとめて	2年間まとめて
領域の構成		「食物」「被服」「住居と家族」	「食物」「被服」「家族の生活と住居」	設定なし 内容(1)～(8)
指導内容の示し方		学年ごと	学年ごと	2年間まとめて

資料) 文部省「小学校指導書 家庭編」昭和53年・平成元年 開隆堂出版

文部省「小学校学習指導要領解説 家庭編」平成11年 開隆堂出版

表2. 中学校学習指導要領「技術・家庭」の変遷

			昭和52年改訂	平成元年改訂	平成10年改訂
授業 時 数	必修	1年生	70時間	70時間	70時間
		2年生	70時間	70時間	70時間
		3年生	105時間	70～105時間	35時間
	選択	3年生 35時間	2・3年生に設定	1～3年生に設定	
目標の示し方			領域ごと	領域ごと	分野ごと
領域の構成			<技術系列> A 木材加工1・2 B 金属加工1・2 C 機 械1・2 D 電 気1・2 E 栽 培 <家庭系列> F 被 服1・2・3 G 食 物1・2・3 H 住 居 I 保 育	A 木材加工 B 電 気 C 金属加工 D 機 械 E 栽 培 F 情報基礎 (新設) G 家庭生活 (新設) H 食 物 I 被 服 J 住 居 K 保 育	[技術分野] A 技術とものづくり B 情報とコンピュータ [家庭分野] A 生活の自立と衣食住 B 家族と家庭生活
指導内容の示し方			○性別による履修領域指定有り(男女とも計7領域以上) 男子:技術系列から5領域・家庭系列から1領域を含む 女子:家庭系列から5領域・技術系列から1領域を含む ※「すべての女子生徒に履修させることが望ましい」とされた領域に下線 ○領域の配列に順序性有り	○性別履修指定撤廃→完全男女共修化 ○学年指定有り 1年生 A・G 必修4領域 ※必修領域に下線 選択3領域 計7領域以上	○学年指定なし 必修内容:各分野、AB各(1)～(4)項目 選択内容:各分野、AB各(5)・(6)計4項目のうち1または2項目

資料) 文部省「中学校指導書 技術・家庭編」昭和53年・平成元年 開隆堂出版  
 文部省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」平成11年 東京書籍

(1) 小学校

表1からわかるように、小学校「家庭」の授業時数は、平成10年度改訂時に5年生で10時間、6年生で15時間、それぞれ縮減された。また、平成元年改訂において目標が、平成10年改訂において指導内容がそれぞれ大綱化され、5年生・6年生の2年間まとめて示されるようになった。また、平成10年改訂版において領域構成の設定がはずされたことにより、各内容の関連を図ること<sup>3)</sup>、すなわち題材の大綱化も求められるようになった。

(2) 中学校

表2からわかるように、中学校「技術・家庭」は、昭和52年改訂の男女別履修(いわゆる相互乗り入れ)を経て、平成元年改訂で男女共履修へと移行した。すなわちこの改訂で、「技術」関連の内容、及び「家庭」

関連の内容を男女ともに履修することになったのである。しかし、それにもかかわらず、授業時数は倍増されたわけではない。したがって、この時点で実質的な履修時間数は半減したと言ってよい。その結果、選択領域とされたC～F及びI～Kの中で履修されない領域が複数存在する可能性があらわれた。

さらに、平成10年改訂時には、3年生の授業時数が大きく縮減された。また、11に細分化されていた領域が2つの分野として括られ、内容の大綱化が図られるとともに、領域ごとに示されていた目標も分野ごとに整理された。各分野における内容項目の配列も、ゆるやかな方向性(A→B)は示されたが、原則として、カリキュラムの編成は現場教員に一任されたと言える。選択教科の設定については、3回の改訂で低学年から可能になり、授業時数の配分も増加した。しかし、選

択教科はあくまでも選択であり、言うまでもなくすべての生徒に対して保障された教育ではない。したがって、本論では必修教科として設定されている事項について検討する。

(3) 今後の展開

こうした状況の下で、内容の充実を図ろうとすれば、必然的に多様な工夫が不可欠である。例えば、多領域の複合的な学習内容を含んだ題材・単元を構想したり、生活を総合的に捉えたりする視点が重要になってくるであろう。同時に、他教科や総合的な学習との関連性を考慮した題材・単元の設定も検討しなければならないが、中学校「技術・家庭」の場合であれば家庭分野と技術分野を関係させた単元構想も、有効な展開と考えられる。

では、小学校2年間と中学校3年間の、合計5年間で1つの学習単位として考えたとき、新たな可能性が見えるのではないだろうか。多くの内容を含む家庭科は、これまでもスパイラル型の学習を重視してきた。授業時数削減、及び大綱化を考慮すれば、小中学校5年間を関係させたカリキュラム構想が、これまで以上に有意義になってくると考える。

以下、小中学校の家庭科カリキュラムを「意思決定力の育成」という、共通の視点で検討していく。このことによって、小中それぞれの目標と内容によって構成されたカリキュラムを、関係させる手がかりが得られると考える。



図1. 家庭科で育てたい力（能力）と学習課題

## 2. 意思決定力の育成を目指した

### 家庭科教育

#### (1) 意思決定とは

そもそも「意思決定 (Decision Making)」とは、“複数の選択肢の中から何かを合理的に決めること”であり、その行為はプロセスをとる。また、ボニスとバニスターは、意思決定のプロセスには、次のような段階<sup>4)</sup>があるとしている。

- 段階1 目標を決め、問題を明確にする。
- 段階2 情報を集める。
- 段階3 選択肢を考える。
- 段階4 結論を検討する。
- 段階5 意思決定し、行動する。
- 段階6 意思決定を評価する。

こうした段階をふまえ、最終的に評価した結果を次の意思決定のプロセスへフィードバックすることが、望ましい意思決定のあり方とされている。

日々の生活は、まさに意思決定の連続である。それらの多くは、無意識のレベルで行われているが、進学、就職、大型消費財の購入など、重大な意思決定を迫られる場面も少なくない。こうした重大な意思決定を、最小のリスクで最大の満足が得られるように実行することが大切であり、そのためには「小さな意思決定」の練習を重ねることが有効とされている。

#### (2) 家庭科教育における意思決定

家政学を主たる背景の学問とした家庭科教育では、「意思決定」をどのように捉えているのだろうか。

山口は、家庭科教育における意思決定論の展開<sup>5)</sup>を整理し、生活における「問題解決能力」の1つとして「意思決定力」を捉え、1990年代以降、「意思決定」をキーワードとする論文が『家庭科教育学会誌』や『家庭科教育』(家政教育社)に掲載されていること、高等学校の家庭科教科書において「意思決定」に関連する記述がみられること等から、意思決定が近年家庭科教育において重視される傾向にあることを指摘している。

また、意思決定力の育成を家庭科教育の目標の1つとする考え<sup>6)</sup>も展開されてきた。さらに、北陸地区家庭科カリキュラム研究会は、「家庭科で育てたい力(能力)と学習課題」<sup>7)</sup>を、図1のように提案し、育てたい能力と学習課題の接点に、中核的なねらいとして「意思決定力」と「実践力」の育成を据えている。

このことは、すべての題材・単元のねらいを抽象化したときに、最も重要なキーワードとして両者が位置づけられていることを意味するものと考えられる。つまり、すべての題材・単元で意思決定力の育成を図ることの可能性を示唆しているとも言えよう。

なお、本論では、北陸地区家庭科カリキュラム研究会と同様の立場で意思決定力を捉えるものとする。

## 3. 附属新潟小学校及び附属新潟中学校に

### おけるカリキュラムの検討

#### (1) 平成14年度の年間計画(小学校5・6年、中学校1～3年)の整理

カリキュラムの実際を検討するにあたり、附属新潟小学校及び附属新潟中学校の平成14年度年間指導計画の題材名とねらい及び授業時数、学習指導要領との関係を整理した。表3は小学校の、表4は、中学校の年間指導計画の一覧である。

小学校のカリキュラムは、小題材が並列されているため、総じて配当時数が短い題材が多い。そのため、結果として年間題材数が9～11と、多くなっている。小題材間の関連を一層密にすることによって、さらなる大綱化を図ることができると思われる。具体的には、第5学年の題材6と7、及び9～11などは、それぞれ大きなテーマで括ることが可能であろう。

一方、中学校のカリキュラムは、学校行事(23:演劇発表会、26～29:修学旅行)や技術分野(25、31)との関連が考慮されている。年間の授業時数そのものが少ないことを反映し、題材数は2～5と少なくなっている。

#### (2) 意思決定力育成のレベルによる分類

5年間のカリキュラムについて、授業者が意思決定に関わる能力の育成をどの程度意図していたかによって、4つのレベルに分類した。結果は表5に示すとおりである。

なお、分類は以下のような基準で行った。

- A: 意思決定力の育成を非常に重視する**
  - 意思決定プロセスの段階をふまえ、意思決定力の育成を主たる目標とする。
- B: 意思決定力の育成を重視する**
  - 意思決定力の育成が主たる目標ではないが、学習活動に意思決定プロセスの段階の一部を含んでいる。
- C: 意思決定の必要がある**
  - 学習活動の中に、意思決定の必要がある場面が含まれている。
- D: 意思決定の場面がない**

最も意思決定力の育成が重視されていたと考えられるのは、中学校の3つの題材であった。授業者は、その根拠を次のように整理した。

- 題材22(第1学年):食事づくりで、どこに重点を置くかを検討する題材である。それに基づいて、計画を立て、実習を行う。その際、用いる方法、食材などを吟味し、決定していく。さらに実習後、自分たちの食事づくりについて評価、振り返りを行い、それらに基づき、再

表 3-1. 平成 14 年度 附属新潟小学校年間指導計画 (第 5 学年)

月	題 材 名 ( ) 内は時数 ね ら い	学習指導要領 との関係
4	<p>○ 家庭科 Let' s go ～親子で語ろう～ (3)</p> <p>・家庭科学習のスタートにあたり、学習への期待感や思い・願いを発表する。 ・自分たちがこれからしたいことが家庭生活に役立つかどうかについて、家庭で調査したり、保護者と話し合ったりする。 ・これからしたいと思っていることが、自分の家庭生活に役立つことを知り、これからの家庭科学習への見通しをもつ。</p>	(1)
5	<p>○ 学級旗を作ろう (5)</p> <p>・裁縫道具のそれぞれの使い方や名前を知り、玉結びや玉止め、なみ縫い、返し縫い等の基礎的な技能を身に付ける。 ・身に付けた技能を使って、手縫いで工夫して自分のマークや顔・名前などを表現する。</p>	(3)
6	<p>○ 安全・衛生的な調理 ～おにぎり給食の付け合せを作ろう～ (6)</p> <p>・包丁やまた板等の調理器具を安全に衛生的に使う。 ・安全で衛生的な調理方法について、家庭で聞き取り調査をしたり、資料を調べたり、専門家の話を聞いたりする。 ・身支度や手洗いなど、衛生的な調理の仕方が分かり、実習で使う。 ・学習したことを基に、「ぼく・私のサラダ」を工夫して作る。</p>	(4) (5) (6)
7	<p>○ 衣服をチェック! ～衣替えて何?～ (4)</p> <p>・「衣替え」について調べることを通して、衣生活について見つめることができる。 ・季節に合った着方調べを通して、普段何気なく着ている衣服の働きについて知り、自分の着方の良さ・不十分さが分かり、自分の衣生活を見直す。 ・日常生活の中で、どんな時にどんな衣服を身に付けているかが分かり、自分の衣生活に生かそうとする。</p>	(2)
	<p>○ 1学期のまとめと夏休みの計画 (1)</p> <p>・1学期に、どんな学習をして、どんなことができるようになったかまとめる。 ・身に付けた知識や技能を基に、夏休みに応用活用してみたいことを見付ける。 ・夏休みに生かす計画を立てる。</p>	(1)～(8) より 選択
9	<p>○ 栄養満点+環境満点の卵料理 (12)</p> <p>・卵を使った身の回りにある料理を調べる活動を通して、食生活の振り返りを促し、卵は、便利な食材であること が分かる。 ・自分の好みのゆで卵を作るために、進んで調査し、実習する。 ・卵の栄養素(たんぱく質)や、その性質(加熱によって固まる)が分かる。</p>	(5) (7) (8)
10	<p>○ ふっくらおいしいご飯炊き (8)</p> <p>・玄米から白米までの精米の仕方による米の種類と、それぞれのよさが分かり、好みの米を選ぶ。 ・米の炊き方が分かり、正しい手順で実習する。 ・収穫した米をおいしく炊き、この学習でお世話になった米作り農家の方やお世話になった人をお招きして、収穫祭をする。</p>	(1) (5)

月	題 材 名 ( ) 内は時数 ね ら い	学習指導要領 との関係
11	○ <b>マイブランド作品 生活に役立つものパート1</b> ～手縫いとミシン縫いによる被服製作～ (10)	(3) (7)
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの被服製作にかかわる知識や技能を、マイブランド作品の製作に役立てる。</li> <li>・マイブランド作品の制作に必要な材料を集めたり、購入したりする。</li> <li>・これまでである知識や技能では解決できない新たな問題(ミシン縫いの方法、布端の始末、ゆるみのある大きさ等)を進んで調べ、適切に製作する。</li> </ul>	
1	○ <b>家族と共に</b> ～家族の触れ合い団らん計画～ (4)	(1) (3) (5)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活時間の中で家族と共に過ごしている時を色分けする作業を通して、家族との触れ合いや団らんについて、自分の考えをまとめる。</li> <li>・よりよい家族関係にするために、ぼく・私作の触れ合い団らん計画『家族そろって〇〇』を家族に提案する。</li> </ul>	
2	○ <b>家族に提案, 自分の仕事</b> ～家族の仕事と自分～ (4)	(1) (2) (3)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と家族の生活時間の比較を通して、家族のためにする家庭内の仕事があることを知る。</li> <li>・家族への協力に関して、自分の協力度度について見当し、考えをまとめる。</li> <li>・自分ができる家庭内の仕事を見付け、家庭実践に向け、計画を立てる。</li> <li>・実践や、家族との対話を通して、家族のあたたかさに浸り、自分が家族の中の大事な一員であることに充実感を持つ。</li> </ul>	
3	○ <b>もうすぐ6年生, 生活時間を考えよう (3)</b>	(1)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家族と共に」で作った生活時間調べを友達と交換し、比較検討する。</li> <li>・比較検討や話し合いにより、自分の生活時間の問題点やよさに気付き、生活時間を見直す。</li> <li>・これまでの学習で気付いた自分の生活時間の使い方の改善点やよさを生かし、「もうすぐ6年生, わたしの生活時間」を作成する。</li> </ul>	

表 3-2. 平成 14 年度 附属新潟小学校年間指導計画 (第 6 学年)

月	題 材 名 ( ) 内は時数 ね ら い	学習指導要領 との関係
4	○ <b>我が家の地球温暖化防止計画</b> ～環境に優しい家庭生活をしよう～ (7)	(2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境家計簿を付けたり、地球温暖化の資料を見たりして、自分の生活の仕方を環境の観点から見つめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・無駄な二酸化炭素を排出しないために、資料を基にしたり、保護者や友達との情報交換したりして、我が家にあった方法を考える。</li> </ul> </li> <li>・自分で考えた方法を家族に提案し、家庭で試す。</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で試したことを基に、情報交換を行い、自分の家に合った地球温暖化防止計画を作り、家庭実践を行う。</li> </ul>	
	○ <b>マイブランド作品 生活に役立つものパート2</b> ～説明書を読み取って～ (6)	(3) (7)
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの被服製作にかかわる知識や技能を使って、説明書を作る。</li> <li>・マイブランド作品の製作に必要な材料を集めたり、購入したりする。</li> <li>・これまでの知識や技能では解決できない新たな問題を進んで調べ、適切に製作する。</li> </ul>	

月	題 材 名 ( ) 内は時数 ね ら い	学習指導要領 との関係
7	<p><b>○ 家族に提案, 一食分の食事</b> <b>～家族と食生活～ (6)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おうちの方が食べさせたい1食分の食事と、自分が食べたい1食分の食事を比較検討することを通して、食事は、嗜好だけでなく、健康の観点からも考える必要があることが分かる。</li> <li>・グループ内の嗜好と栄養のバランスを考え、木曜日のおにぎり給食の日の昼食を整える。</li> <li>・家族に合った献立にするために、家族の好きなものを聞いたり、おうちの方のアドバイスを聞いたりするなど、家族と進んでかわる。</li> <li>・各家庭にぴったりの1食分の献立を立て、家族に提案し、家庭で実践する。</li> </ul>	(1) (4) (5)
9	<p><b>○ 衣服をチェック! ～選択名人になろう～ (6)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択の失敗例を見て、失敗した原因を考える。</li> <li>・選択の必要性が分かり、洗濯方法を知り、洗濯実習で確かめることができる。</li> <li>・既製服に付いている表示の見方を知り、日常着の購入時や手入れの時に役立てることができる。</li> <li>・衣服に合った洗剤選びをしたり、環境に優しい洗剤の使い方(使用量)をしたりする。</li> <li>・これからの衣生活について、自分ができることはどんなことで、どんなふうに取り組んだらよいかの計画を立てる。</li> </ul>	(2) (7) (8)
10	<p><b>○ 生活の知恵探検隊 ～家族の仕事と自分～ (7)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣食住にかかわる生活の知恵を進んで調べることができる。</li> <li>・それぞれの生活の知恵が分かる。</li> <li>・自分の生活の中で使っていけそうな方法を選択し、家族提案する。</li> </ul>	(1) (2) (4)
11	<p><b>○ 収穫の秋を味わおう!! (8)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケット探検を行い、旬の食材探しをする。</li> <li>・各家庭に工夫した調理方法があることに興味をもち、自分ができそうな旬の食材を選んで調理する。</li> </ul>	(5) (7) (8)
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旬の食材を使った様々な料理に興味・関心をもち、他の季節にも旬の食材を使った調理に挑戦しようとしたり、秋の食材を使って自分でも作ってみようとしたりする。</li> </ul>	
1	<p><b>○ 正月の過ごし方から考えること (5)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のお正月を中心にした冬休みの暮らし方を振り返る</li> <li>・自他の暮らし方を比較することによって、暮らしについて関心をもつ。</li> <li>・関心をもったことについて、様々な人に積極的に触れ合いながら調査する。</li> <li>・調査したことの発表会を行い、様々な暮らしの中の風習を知り、暮らしの中で生かしていこうとしたり、伝えていこうとしたりする。</li> </ul>	(5) (7) (8)
2	<p><b>○ 暮らし方をチェック! (5)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の暮らしを見つめ、他の季節と違い、暖かく暮らす工夫をしていることを知る。</li> <li>・自分の関心のあることから選択し、進んで調査することができる。</li> <li>・自他の調査の結果発表から、冬の暮らし方を考え、家庭生活に生かそうとする。</li> </ul>	(1) (6)
3	<p><b>○ 家庭科 Last run ～お世話になった人と共に～ (5)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二年間の家庭科学習を振り返り、学習したことを生かし、学校や家庭、地域社会をよりよくする工夫をする。</li> <li>・自分なりの計画を立て、創意工夫をして学習を進める。</li> <li>・友達の学習のよさを認め、これからの学習に生かす。</li> </ul>	(1) 各 自 が (2) (3) (4) (5) (6) より 選 択 した 内 容

表 4-1. 中学校年間指導計画 (第1学年)

月	題 材 名 ( ) 内は時数 ね ら い	学習指導要領 との関係
4	○ 人生すごろくを作ろう (3) ・自分のこれからの人生で起こりうる生活課題を把握する	全般
5	○ 家族が突然出かけたら ～自分でできる簡単な食事づくり～(12) ・身近にある食材を用いて日常食の調理ができる。 ・食事を作る際に考慮が必要な点を見いだすことができる ・食品の栄養的な特質を理解し適切に材料を選択し、1日分の献立を作成することができる。	A(1)ア～ウ、 (2)ア～ウ
9	○ キャストの衣装を考えよう (2) ・社会生活を送る上での衣服の役割を説明できる。 ・個性を生かす着装の工夫を説明することができる。	A(3)ア、イ
10	○ 快適な住空間を作るには (10) ・快適な住空間を整えるための換気の仕方、騒音防止、室内の整備の仕方などの住まい方の工夫を説明することができる。 ・家族が住まう空間としての住居の機能が説明できる。	A(4)ア、イ
1	○ 衣類の手入れをしよう (8) ・衣服材料や汚れの種類や性質に応じた用具や用品を選択し、衣服の手入れや補修ができる	A(3)ウ

表 4-2. 中学校年間指導計画 (第2学年)

月	題 材 名 ( ) 内は時数 ね ら い	学習指導要領 との関係
4	○ 自分の食生活を見直そう (25) ・生活の中で食事が果たす役割や、健康と食事との関係がわかる。 ・健康で長生きすることと中学生期の食生活との関連を説明できる。 ・食品の調理上の性質を理解しそれを生かした調理実習ができる。 ・生鮮食品や加工食品の適切な選択ができる。 (1) 長寿県沖縄の食生活を知ろう (2) 自分たちの食生活の特徴を知ろう (3) 現代人に不足しがちな栄養素を摂ろう (4) 食生活と地域のかかわりを知ろう	A(1)ア、(2)ア ～ウ、(5)ア
2	○ 子どもの生活 (10) ・自分の成長と周囲とのかかわりを説明できる。 ・子どもの成長における家族や地域の役割を説明できる。 ・子どもの成長における遊びの意義を説明できる。	B(1)、(2)ア、 イ (3)ア、イ



表 4-3. 中学校年間指導計画（第3学年）

月	題 材 名 ( ) 内は時数 ね ら い	学習指導要領 との関係
4	<b>○よりよい購入先を見つけよう（10）</b> ・商品購入の際に必要な情報を価格、支払方法、アフターサービス、情報の信頼性などの観点から収集することができる。 ・収集した情報を複数の観点から比較、検討しその結果を基に根拠を明確にして購入する販売元を決定することができる。 ・よりよい購入のために必要な消費者の権利と義務についてまとめることができる。	B(4)ア、イ
10	<b>○幼児と触れ合おう（5）</b> ・幼児の心身の発達の特徴を説明することができる。 ・幼児の心身の発達に役立つ遊びを考え、そのための遊び道具を製作することができる。 ・幼児の心身の発達の特徴をとらえ、幼児に対するかかわり方の工夫ができる。 ・幼児にとって安全な住空間を整えることができる。	B(2)ア、イ、(3) ア、イ
2	<b>○これからの生活を考えよう（2）</b> ・3年間の学習を基に、自分のこれからの生活における衣食住の在り方や、家族や地域社会の一員としての生活の仕方などを説明できる。	全般

度食事づくりを行う。この学習過程に、選択、購入、決定、判断など、意思決定プロセスの段階が含まれている。

- 題材 31（第3学年）：様々な販売方法や支払方法について知り、どんな点を重視して物資・サービスを購入するか、自分の考えを述べる題材である。「タコライス」をインターネットショッピングにより購入する際、様々な観点を設け、多くの情報を収集し、根拠を明確にし、購入先を決定する。また、購入の過程を振り返ったり、購入した商品を比較したりして、自分の消費行動を振り返り、それらを基にして、今後の自分の消費生活のあり方を検討していく場面がある。
- 題材 33（第3学年）：3年間の学習を通して、社会の中で自分がどのような生活を送っていきたいのかを明らかにする題材である。さらに、そのように考える根拠やそのために必要なことやもの、配慮すべきことなどを述べる。そこでは、生活に関わるものに対する、自分の価値基準を明確にしていくという意思決定が行われている。

これに対し、小学校においてはAレベルの題材が設定されていなかった。しかし、いわゆる問題解決型の学習や調べ学習を軸に構成されている（題材 3・4、6、9～12、14～16、18～20）ため、Bレベルの題材が非常に多く配置されていた。問題解決型の学習が、必ずしも意思決定力の育成を目指すものとは言えないが、その学習過程は意思決定のプロセスと重なる点が多い

8)。したがって、意思決定力の育成が授業の主たるねらいになっていなくても、意思決定プロセスの一部を使って（授業者がそれを意識して）問題解決に導く学習を繰り返すことで、実践的な意思決定の練習を重ねることが期待できる。

また、小中5年間を通してみると、小学校第5学年の家庭科学習1時間目の導入（題材1）、及び中学校第2学年のいわゆる保育学習（題材30）を除き、すべての題材で何らかの意思決定学習が行われていたことになる。

第5学年前半は、意思決定の必要がある場面を含む題材が配列されていた。具体的には以下のような場面である。

- 題材 2：学級旗につける自分のマークや顔などのデザインを考えて計画を立て、縫い方なども考えて製作する場面。
- 題材 3：おにぎり給食に合う、付け合せのサラダを決める場面。材料を決め、切り方などを考えて工夫して調理する場面。
- 題材 4：「冬の衣服の着方が暖かく、夏の衣服の着方が涼しいのはなぜだろう」というテーマのもと、自分で予想し、実験や調査活動を進める場面。

このような、児童自身が何かを意思決定しなければならぬ場面において、それを自己評価する学習活動を取り入れることが重要であろう。決めたこと、実行したことが合目的かつ合理的であったのかどうか、もし、そうでなかったとしたら、その原因はどこにあ

表5. 各題材と「意思決定」の関わり

学年	No	題材名 ( )内は時数	分類
(小) 第5学年	1	○家庭科 Let's go ～親子で語ろう～ (3)	D
	2	○学級旗を作ろう (5)	C
	3	○安全・衛生的な調理 ～おにぎり給食の付け合せを作ろう～ (6)	C
	4	○衣服をチェック! ～衣替えて何?～ (4)	C
	5	○1学期のまとめと夏休みの計画 (1)	B
	6	○栄養満点+環境満点の卵料理 (12)	B
	7	○ふっくらおいしいご飯炊き (8)	C
	8	○マイブランド作品 生活に役立つものパート1 ～手縫いとミシン縫いによる被服製作～ (10)	B
	9	○家族と共に ～家族の触れ合い団らん計画～ (4)	B
	10	○家族に提案, 自分の仕事 ～家族の仕事と自分～ (4)	B
	11	○もうすぐ6年生, 生活時間を考えよう (3)	B
第6学年	12	○我が家の地球温暖化防止計画 ～環境に優しい家庭生活をしよう～ (7)	B
	13	○マイブランド作品 生活に役立つものパート2 ～説明書を読み取って～ (6)	B
	14	○家族に提案, 一食分の食事 ～家族と食生活～ (6)	B
	15	○衣服をチェック! ～選択名人になろう～ (6)	B
	16	○生活の知恵探検隊 ～家族の仕事と自分～ (7)	C
	17	○収穫の秋を味わおう!! (8)	B
	18	○正月の過ごし方から考えること (5)	B
	19	○暮らし方をチェック! (5)	B
	20	○家庭科 Last run ～お世話になった人と共に～ (5)	B
	(中) 第1学年	21	○人生すごろくを作ろう (3)
22		○家族が突然出かけたら ～自分でできる簡単な食事づくり～(12)	A
23		○キャストの衣装を考えよう (2)	C
24		○快適な住空間を作るには (10)	B
25		○衣類の手入れをしよう (8)	B
第2学年	26	○自分の食生活を見直そう (25) (1) 長寿県沖縄の食生活を知ろう	C
	27	(2) 自分たちの食生活の特徴を知ろう	B
	28	(3) 現代人に不足しがちな栄養素を摂ろう	B
	29	(4) 食生活と地域のかかわりを知ろう	C
	30	○子どもの生活 (10)	D
第3学年	31	○よりよい購入先を見つけよう (10)	A
	32	○幼児と触れ合おう (5)	C
	33	○これからの生活を考えよう (2)	A

ったのか、情報収集に問題があったのか、他の選択肢ではどのような結果が予想されるのか等、学習の振り返りとして確認させたい。

第5学年の中盤以降、及び第6学年の全般は、ほぼBレベルの題材が配列されていた。この中には、題材6、8、12、13、15、17のように、学習指導要領「(7)身の回りの物や金銭の計画的な使い方を考え、適切に買物ができるようにする」を受けて設定された題材も

多く見られた。意思決定力の育成は、消費者教育における重要な目標でもあり<sup>9)</sup>、消費行動において影響を与える<sup>10)</sup>とされている。上記題材のいずれかを、(7)を主たる内容として組みなおすことにより、小学校段階でAレベルの題材を設定することも可能であろう。

中学校では、先に述べたように、第1学年と第3学年にAレベルの題材が配置されていた。全体で見ると、各レベルの配當時数の割合がほぼ同率になっていた。

中学校第2学年の題材30は、Dレベルで意思決定の場が設定されていなかったが、学習の展開次第でそうした場面を取り入れることは可能であろう。

### (3) 中長期的視野に基づく評価

次に、中長期的視野に基づく評価の可能性について述べる。

2000年12月の教育課程審議会の答申<sup>11)</sup>を受けて、平成14年度から導入された「目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)」は、教育評価の枠組みを大きく変えた。国立教育政策研究所は、2002年2月に評価のための参考資料<sup>12)</sup>として評価規準を作成したが、その問題性に対する批判<sup>13)</sup>も挙げられている。そこでは、いずれも「評価のための評価」に陥ることが危惧されており、到達度目標とは異なる構造上の矛盾<sup>14)</sup>も指摘されている。また、「目標に準拠した評価」という前提であるにも関わらず、「指導と評価の一体性」ばかりが強調され、目標が抜け落ちていることへの懸念<sup>15)</sup>もある。

では、本論で注目した「意思決定力の育成」のような、家庭科カリキュラム全体に関わる横断的な目標は、果たしてどのような評価がふさわしいのであろうか。Aレベルの題材・単元内で完結させる、短期的な評価としての位置づけのみでは不十分なのではないだろうか。その題材・単元内で意思決定の意味を理解し、なおかつ意思決定プロセスやその段階をふまえて意思決定できたとしても、それが家庭科で求めるべき「意思決定力」とは考え難い。

むしろ、こうした目標の達成度を評価しようとした場合、ある題材の一場面を、別の題材の主たるねらいの達成度を測る評価の一部として位置づけることも効果的ではないだろうか。個別の題材・単元内で達成すべき目標を設定することは当然必要であろうが、「意思決定力の育成」のようなカリキュラム横断的な目標は、中長期的な視野で柔軟にカリキュラムを構成し、多様に評価する方が合理的であると考える。

例えば、小学校第5学年の題材6または8を、内容(7)を重視したAレベルの題材とし、意思決定プロセスをふまえた学習内容を取り入れる。このとき、既習題材における意思決定場面の振り返りと、その意味の確認が有効な手がかりになるだろう。また、その後の題材では、どの程度合理的な意思決定ができたか、様々な形で評価することができる。小学校では、ベースになるAレベルの題材を学習した後、B・Cレベルの「小さな意思決定」を多様に積み上げ、意思決定プロセスの各段階の意味を問題解決型の学習を通して学んでいくことが妥当ではないかと思われる。

こうした学習経験を前提にすれば、中学校第1学年の題材22(Aレベル)の前半は、意思決定の診断的評価の場面として位置づけられよう。後半は、自らの意思決定を振り返り、自己評価し、次へフィードバック

する意思決定の形成的評価の場面として位置づけることが可能である。

中学校では、生活の自立を目指した、より実践的な問題解決型の学習が展開される。その際、上述のように第1学年の初期段階で意思決定の基本的事項について確認しておくことで、その後の題材・単元における評価の意味が明確になるのではないだろうか。

また、Aレベルの題材33は、義務教育最後の家庭科学習である。ここで、家庭科の中核的なねらいでもある意思決定力を、学習の集大成として総括的に評価することが重要である。題材31で学習した意思決定プロセスの各段階が、題材33でどのように活かされているか、批判的に自己評価するところまで求めたいと考える。

## おわりに

本論では、意思決定力の育成という視点でカリキュラムを検討してきたが、5年間の内容を貫く横断的な価値は、他にも「環境に配慮した生活意識」などが考えられよう。こうした抽象化された価値についても同様の分析を試みることによって、より題材・単元の関係性、系統性が明確になる<sup>16)</sup>と思われる。確かに、これまでも、既習事項をふまえたり、題材の重複を避けたりするような配慮はなされてきた。今後は、小中5年間の連係を考慮した上で、育てたい力がどの題材・単元でどのように身に付くのか、それを、どこでどのように評価するのか、といった観点からもカリキュラムを構想することが、ますます重要になるであろう。

本論では、統一敷地内の同一校舎における小中学校を例に挙げたが、今後、家庭科カリキュラムの構想が、近隣の小中学校における連係に基づいて進められることを期待したい。

## <注・引用文献>

### 【注及び引用文献】

- 1) 家庭科教育学会編『家庭科の21世紀プラン』家政教育社(1997) pp.113~121
- 2) 日本教育大学協会全国家庭科部門 小・中・高のカリキュラムに関する特別委員会編「一貫性を考慮した家庭科カリキュラム ～「基本的概念」と「目標の観点」による基本カリキュラムの作成と活用～」(1999)
- 3) 文部省「小学校学習指導要領解説 家庭編」開隆堂出版(1999)
- 4) J. G. ボニス, R. バニスター共著 小木紀之・宮原佑弘監訳『賢い消費者 —アメリカの消費者教育の教科書—』家政教育社(1998) p.12
- 5) 山口厚子「意思決定論の視点から」長島俊介編

著『生活と環境の人間学』昭和堂(2000) pp.223  
～225

- 6) 前掲書2)では、目標の観点として「生活者としての個の確立」、「生活の科学性」、「生活者としての社会性」、「生活に対する感性」、「生活の創造性」、「生活の経営力」の6つの柱を立て、それらを26の育てたい力に細分化している。意思決定力は、「生活者としての個の確立」の中の1つに位置づけられている。
- 7) 家庭科教育学会北陸地区カリキュラム研究会報告書(印刷中)
- 8) 中間美砂子「家庭科における問題解決能力の育成」家庭科教育、第69巻、4号(1995) pp.6～12
- 9) 中原秀樹「消費者教育の定義と目標」今井光映・中原秀樹編『消費者教育論』有斐閣ブックス(1994) pp.100～102
- 10) 長島和子、中原秀樹、松岡明子翻訳監修『消費者教育における諸概念の分類』日本消費者教育学会関東支部(1996) pp.6～7
- 11) 教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」(2000)
- 12) 国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料—評価規準、評価方法等の研究開発(報告)」(2002)
- 13) 木村元「教育評価の立脚点について 評価を巡る動向を捉えるために」家庭科研究、No.218(2003) pp.4～9、鶴田敦子「教育的評価からほど遠い国政研の評価」技術教室、No.603(2002) pp.4～9、など
- 14) 大津悦夫「到達度評価の考え方」家庭科研究、No.218(2003) pp.10～15
- 15) 阿原成光「すべての子どもに「生きる力」を保障する教育評価の創造を」家庭科研究、No.218(2003) p.17
- 16) 前掲書2)では、21の基本的概念と26の目標の観点を二元的に配置し、カリキュラムの一貫性を検討している。